

# にほん らくご 日本の落語について



らくご か  
落語家  
かつら よねだん じ  
桂 米團治

みな わたし らくご か らくご しゃべ しょくぎょう ひと らくご か  
皆さん、こんにちは！私は落語家です。落語を喋ることを職業にしている人のことを落語家〔も  
しくは落家〕と言います。これから落語についてお話ししましょう。

らくご にほん こてんげいのう ひと い のう か ふ き えんげき かた  
落語とは、日本の古典芸能の一つです。と言っても、能や歌舞伎などのような演劇ではなく語  
りの芸、いわゆるストーリーテリングです。いろんな国で、立って喋る形態はよく見かけますが、  
らくご すわ しゃべ  
落語は座って喋るのです。

ふつう かた ベ たと えい おとこ ひと はい ひさ  
普通の語り部なら、例えば「ある日、男の人が“こんにちは”“おう、こっち入り。久しぶりやな、  
なに いそが くあひ かい わ かたち はこ  
何しててん”“忙しくてね”という具合に、ほとんどすべてを会話の形で運ぶのです。

ひとり えんじゃ なんにん じんぶつ えん わけ きやく き ぼ めん そうぞう  
つまり、一人の演者が何人も人物を演じ分けて、お客さんはそれを聴きながら場面を想像してい  
くのです。落語家の顔を見ながら、落語の世界を頭に描いていくというわけです。

えんじゃ おとこ おんな こ しゅんかんてき じんぶつ か  
演者は男になったり、女になったり、子どもになったり……。瞬間的にニン〔人物〕を変えら  
れるのは、正座しているからできることだと私は思います。ちなみに歩いたり走ったりする動作  
もすべて座ったまま行ないます。落語はお客さんの想像力に委ねられた芸だと言えましょう。

そのほとんどが愉快的な噺です。たまに泣かせる噺もありますが、それでも「笑い」が基盤になっ  
ています。はなし さいご つ せつめい むすか ものがたりしゅうし  
噺の最後には「オチ」が付きます。オチを説明するのは難しいのですが、物語の終止  
符を打つための手段なのです。とくに言葉の洒落だったり、噺の状況を一気にひっくり返すドン  
デン返しだったり……。ものごと まじめ かんが ひと き おこ だ わらい  
物事をクソ真面目に考える人が聴くと、怒り出すかもしれません（笑）。  
らくご せそう なな み げい い  
落語は世相を斜めから見ている芸だとも言えましょう。



らくご えとじだい げんろくき せいれき い ねんたい たんじょう せんごくじだい お とくがわ  
落語は江戸時代の元禄期、西暦で言うと1680年代に誕生しました。戦国時代が終わり、徳川  
幕府によって日本が統一され、平和な時期が数十年ほど経過した頃、落語が生まれました。今  
の東京=すなわち江戸と、京・大阪=すなわち上方の二ヶ所で落語は産声をあげたのです。

とうじ にほんじん きもの き せいかつ せいかつ らくごか せいかつ せいかつ  
当時の日本人は着物を着て生活していました。ですから、落語家のスタイルは「お客さんと同  
じですよ」という意味があったのです。持ち物は扇子と手拭い。これは和服姿の人が常に携帯す  
る「みだしなみ」です。「皆さんと同じ格好で高座に上がってお話しますよ」と、観客の一人…  
もっと言えば庶民の代表という気持ちで登場したのです。それが今や日本も洋服社会になったの  
で、落語家のスタイルは特別のコスチュームになりました。

せかい るい にほんどくじ わげい らくご き まわ ちょうしゅう おな わら  
世界で類のない、日本独特の話芸である落語を聴いて、周りの聴衆と同じように笑うことがで  
きたら、あなたは立派な日本通です。日本語と日本文化を知って頂くために、どうぞ、寄席（劇  
場）に来て、生の舞台上に触れて下さい！

かつら よねだんじ  
桂 米團治

せいねんかっぴ ねん かつ にち おおさか ふ おおさか しうま  
生年月日：1959年12月20日 大阪府大阪市生まれ。

かみがたはなしか かんさいがくいんだいがくぶんがくぶそつぎょう  
上方噺家。関西学院大学文学部卒業。

ねん かつ ごだいいめかつらよねだんじ しゅうめい じつふ にんげんこくほう さんだいいめかつらべいちょうべいちょうじ むしよぞく  
2005年10月に五代目桂米團治を襲名。実父は人間国宝の三代目桂米朝。米朝事務所所属。  
かみがたらくごきょうかいかいいん  
上方落語協会会員。